

平成26年度病虫害発生予報第7号

平成26年9月30日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

現在生息している主な種類はミナミアオカメムシです。吸実性カメムシ類はダイズ莢の肥大期まで加害し続けます。引き続き発生に注意しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果率は高い	± ± +

・防除対策

〔ナシ・黒星病〕

落葉は伝染源となるため、適切に処分しましょう。また、10月から11月にかけては、例年りん片への感染が多くなります。来年に備えオキシラン水和剤やICボルドー48Qなどで秋期防除をしましょう。

〔カキ、ウンシュウミカン・カメムシ類〕

飛来を確認した場合は、収穫前日数に注意して、アクタラ顆粒水溶剤やスタークル/アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

・留意事項

ナシうどんこ病、ブドウべと病の発生量が多いほ場では、落葉を適切に処分し、収穫終了後にナシではポリオキシAL水和剤など、ブドウではICボルドー48Qなどで防除しましょう。

モモせん孔細菌病の発生量が多いほ場では、来年の伝染源を減らすため、ICボルドー412などで秋期防除を徹底し、罹病枝は剪定して取り除きましょう。

カイガラムシ類が発生しているナシほ場では、落葉後にマシン油乳剤を丁寧に散布しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	コナジラミ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
トマト (施設) ナス (施設)	ハモグリバエ 類	平年並	県全域	9月下旬のトマト(施設)での発生量は平年並	±
ハクサイ	べと病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	アブラムシ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い	+
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	オオタバコガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	- +
	コナガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	+ ±
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	やや少ない	県全域	9月下旬の発生量は少ない 10月の気温は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	- ± ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は平年並	+ ±
野菜共通	ハスモンヨトウ	少ない	県全域	9月下旬のキャベツにおける発生量は少ない フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	- -

・防除対策

[ハクサイ・アブラムシ類]

アトマイヤーフロアブル、ウララDFなどで防除しましょう。

[キャベツ・黒腐病]

カセット水和剤やバリダシン液剤5などで防除しましょう。銅水和剤（無機）を用いる場合、炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用し薬害を防止しましょう。

[キャベツ・コナガ]

アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤などで防除しましょう。薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう。

[イチゴ（施設）・ハダニ類]

コテツフロアブル、マイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。なお、訪花昆虫や天敵への影響日数に注意してください。

・留意事項

イチゴでは、炭疽病の発病株を見つけたら抜き取り、適切に処分しましょう。

害虫については、キャベツほ場に設置したフェロモントラップにおけるオオタバコガ、シロイチモジヨトウの誘殺数がやや多い状況です。結球部への幼虫の食入を防ぐため、ほ場を見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。また、気温の高い状態が続くと、ハイマダラノメイガの発生が続くおそれがあります。今後の気温の推移に注意して、防除を行いましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	アザミウマ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い	+
	ハスモンヨトウ	少ない	県全域	9月下旬のダイズやキャベツにおける発生量は少ない フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	-
	オオタバコガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

[キク（露地）・アザミウマ類]

ディアナSC、モスピラン水溶剤などで防除しましょう。

・留意事項

オオタバコガは例年、10月に発生量が最も多くなるため、天候次第では急増するおそれがあります。着蕾期以降に食害を受けると被害が大きくなるので、早めの防除を心がけましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台9月25日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 30% 平年並 : 40% 高い : 30%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 30% 多い : 40%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%